



新型コロナ禍の 災害避難を考えよう

日ごろの備え

近年、毎年のように各地で大きな風水害が発生しています。新型コロナウイルス感染症の収束がみえない中、「コロナ」と「災害」から自分や家族を守るために、日ごろから災害に備え、避難場所や避難経路を確認しておきましょう。また、災害発生後、ライフラインや物流が停止する場合があります。復旧するまで自力で生活ができるよう、飲料水や非常食の備蓄、簡易トイレを用意しておきましょう。

「避難が必要かどうか」 判断しよう



大きな災害が発生すれば安全な場所への避難が必要になります。

ハザードマップ等で自宅や自宅周辺にどんな災害リスクがあるか確認し、その上で家族の状況を踏まえ、どのような避難が最適か避難の選択肢を増やし、いざというときに冷静な判断ができるようにしておきましょう。

分散避難を考える

分散避難は、新型コロナウイルスの感染拡大を防ぐため、さまざまな避難先に分散して避難することです。浸水や家屋倒壊の危険性がない場合は、自宅や親戚・知人宅などへ避難することを検討してみましょう。少しでも危険だと思ったら迷わず避難所へ避難しましょう。また、在宅避難・青空避難には事前準備が不可欠です。備蓄品の用意や、家具転倒防止策の強化をおこなしましょう。

分散避難



防災(洪水・地震)マップで自宅がどこにあるか確認し、安全性を確かめましょう。



※HPにも掲載してあります

自宅に災害の危険が...

ない

ある



1 在宅避難

安全な場所に住み身を寄せられる親戚・知人宅が...

ある



2 親戚・知人宅

ない

ない



3 避難所



4 青空避難 (車中泊・テント泊)



マスク・体温計
アルコール消毒液



1 在宅避難

ハザードマップで自宅の安全を確認し、安全であれば自宅に留まりましょう。

2 親戚・知人宅へ避難

自宅にリスクがある場合、安全な「親戚・知人宅」に避難が可能であれば避難しましょう。

3 避難所

安全な場所、安全に行ける場所がない場合は、町が指定する避難所へ避難してください。

4 青空避難 (車中泊・テント泊)

青空避難する時は十分な準備の上で、安全な場所、安全に行ける場所に限ります。車やテントが浸水しないよう周囲の状況を十分に確認してください。



コロナ禍で災害が起きたら
避難所では…

役場職員が 避難所の感染対策を学ぶ

大口町では、新型コロナウイルス感染症と自然災害に備える「避難所における新型コロナウイルス感染症拡大予防ガイドライン」を新たに作成しました。

9月20日(日)には、ガイドラインをもとに「避難所における感染防止対策研修会」を開きました。講師と看護師から、過去の災害で、避難所運営の実態とコロナ禍で抑えるべきポイント、またトイレの重要性から活物処理の仕方を学びました。

① 検温・アルコール消毒 マスクチェック 健康チェックシート配布

避難者は間隔をあけて並び、検温・アルコール消毒・マスクチェックを受け、健康状態チェックシート・避難所利用登録票・避難所利用の注意事項が渡されます。



② 健康チェックシート 記入スペース

健康チェックシートを記入スペースで記入します。耳が聞こえない方、障がいのある方、日本語があまり理解できない方は職員が付き添い記入します。



③ 事前受付・住居区分に案内

事前受付でチェックシートを渡し、居住区分に案内されます。

新型コロナウイルス感染者(軽症者)・発熱や咳がある人・濃厚接触者は専用避難所(中央公民館)へ移動します。

避難所では、感染防止ルールが徹底されます。

▽ 常時マスクの着用や手指の消毒を徹底

▽ 人と人との間隔はできるだけ1mから2mあける

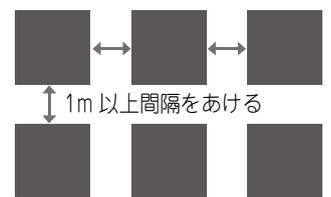
▽ 毎日の体温、体調の確認

▽ ごみは各家庭で密閉して破棄

▽ 靴はビニール袋などに入れて各自で保管



健康な人の 避難所滞在スペース(例)



- 家族間の距離を1m以上あける
- 一家族が一区画を使用。人数に応じて区画の広さを調節

専用避難所(中央公民館)

大規模災害や長期化する災害が起きた場合、中央公民館を専用避難所として開設します。新型コロナウイルス感染者(軽症者)、発熱や咳などの症状がある人や、感染者の濃厚接触者専用の避難所です。通常の避難所とは別に専門の職員がケアや食事の提供などをおこないます。

一般の避難所で感染の疑いのある方は、一時確保場所まで待機し、専用避難所へ移動します。

感染症予防のため 新たに避難所に 持っていくもの

マスク・体温計
アルコール消毒液



大口町が新たに作成した「避難所における新型コロナウイルス感染拡大予防ガイドライン」の制作に携わられた、北地域自治組織の川橋朝次さんと社会福祉協議会の森真希子さんに、お話を聞きました。

川橋さん コロナ禍で、今後の避難所運営は「コロナ」と「災害」の

複合災害として考えていかななくてはなりません。避難所運営で新型コロナウイルス感染症の感染拡大予防対策をし、皆さんが安心して避難できるよう、町民安全課、健康生きがい課、社会福祉協議会の



皆さんとの協議に入らせていただきました。

森さん 大規模災害が起きた場合、新型コロナウイルス感染者（軽症者）、発熱や咳などの症状がある人や、感染者の濃厚接触者専用の避難所として、中央公民館（専用避難所）を設営することになりました。

それ以外の避難所にも、専用スペースを確保します。これは感染対策上の対応ですので、地域全体で理解し合い、感染者やその疑いがある人の人権に配慮することが大切です。

20年前から防災に関心を持ち、勉強会や被災地支援ボランティアに行かれ、地域の防災活動に役立てていらっしゃる川橋さん。コロナ禍で新たな防災対策が必要になりますが、気をつけるポイントは？

川橋さん 地域の災害リスクを知り、安全な場所であれば、親戚・知人

宅なども考えられます。日頃から「いざという時はよろしく」といえるような関係を作っておくことも大切なことと思います。

災害時は、水や食糧の問題も深刻ですが、「トイレ問題」も重要になってきます。簡易トイレ、そして感染症防止のため、マスク、アルコール消毒液、体温計も用意し健康管理につとめたいです。

職員の感染防止対策研修を取材しました。災害時、今まで以上に感染対策が徹底されるため、町内の全避難所が開設された場合、各避難所に職員を配置するのは無理があると思いました。

川橋さん そうですね。今後の避難所運営は、避難所内での集団感染発生を防ぐために感染予防対策の徹底が必要になり、あらゆる場面で行政は人手不足になると思います。そのため、行政ができない部分は避難者と住民で避難所を運営することになります。特に感染リスクの少ない若い力が必要不可欠です。

自らの安全は自らが守る（自助）



▲下水道のマンホールへ設置するトイレ

自分たちの地域は自分たちで守る（共助）地域の方々が互いに助け合うという意識を持って行動することが町全体の防災力の強化になると思います。命と健康を守るために災害に備えることが大切です。今後も、地域での防災活動を継続していきます。



▲段ボールベッドを組み立て居住スペース設置

取材・文/大口町 NPO 登録団体 ZOOM